

残そう、自然の宝石箱・のりくら

くらがね通信

No.67 (冬号)

乗鞍岳と飛驒の自然を考える会

2017年1月20日発行

<http://iidalaw.net/norikura.html>

第17回総会・環境講演会のご案内

期日：3月18日(土) 会場：高山市民文化会館

第Ⅰ部 環境講演会 開場 13:30 開演：14:00

「立山のライチョウ」～データから見る繁殖・生息数など～

講師：松田勉氏（富山雷鳥研究会事務局長）

松田さんは北アルプス・御嶽山・南アルプスなどでの雷鳥調査に携わってこられています。立山では一年を通して生態調査・生息数調査を実施し、今年で41年目となります。長年にわたる立山での雷鳥調査の貴重な成果についてお話しいたします。

第Ⅱ部 第17回総会（環境講演会終了後 15:45 開始予定）

板殿の石仏を訪ねて

井上雅子

山が色づき始めた10月23日朝、♪前方に枯れ葉が舞う♪、五輪真弓の唄の景色。丹生川支所には20数人の人々が集まっていた。数年前柵の大樹を見に行っていた以来、板殿は特別の場所。山中を抜けると、突然開けた明るい台地にその集落は現れる。そこの石仏を訪ねて歩くと言うので、心おどる思い。

車を止めた旧丹生川東小学校から、石仏探訪は始まる。白井の道祖神・青面金剛、国道の壁にきっちり納められた、白井・芦谷の境界を示す道祖神を経て、芦谷と板殿を結ぶ山道に入る。その入り口に弘化五年三月と刻まれた道祖神、左の女神はひざまずき、右の男神を見つめる。正面向いた男神の両耳が異様に長く、おしゃか様のような。かつての通学路だった山道を上がると、30分足ら



板殿集落

ずで集落を見渡せる村はずれに到着する。

一 最初は伊太祁曾神社、永禄年間（1558～1569）井戸某が来たり、五十猛大神を鎮護神と仰いで以来、神木として板殿を見守ってきた大栃がある。実に堂々とした巨樹。

二 牛神様、祠でなく石室（いしむろ）にまつられている馬頭観音。右に安政七年三月、左に山郷三四郎とある。

三 地藏様、かつては背後の山にまつられていた。文化二年丑八月、施主市三郎。

四 妙見様、扉がきっちり閉まっていたので拝見するのに多少労苦。高さ20cmに満たない石地藏菩薩（両手をあわせている）、磁器神像が並ぶ。

五 女神様、双体道祖神。男神は笏（しゃく）を持ち、両手をあわせた女神の衣の裾に朱の色がすこし残る。どことなくお公家風。

六 前立て様、前立（まえだて）とは、「前に立てること」と広辞苑にある。本尊の前に立てられた仏様ということ？祠のなかった頃は、近所の人が真綿（絹の綿）のほお被りをかぶせていたと言う。右手を挙げ左手に何か持っている。

七 庚申様、青面金剛。享保七年七月、朱の色が所々に残る。左側に地藏菩薩。青面金剛の別称を庚申といい、江戸時代には庚申信仰が盛行したという。

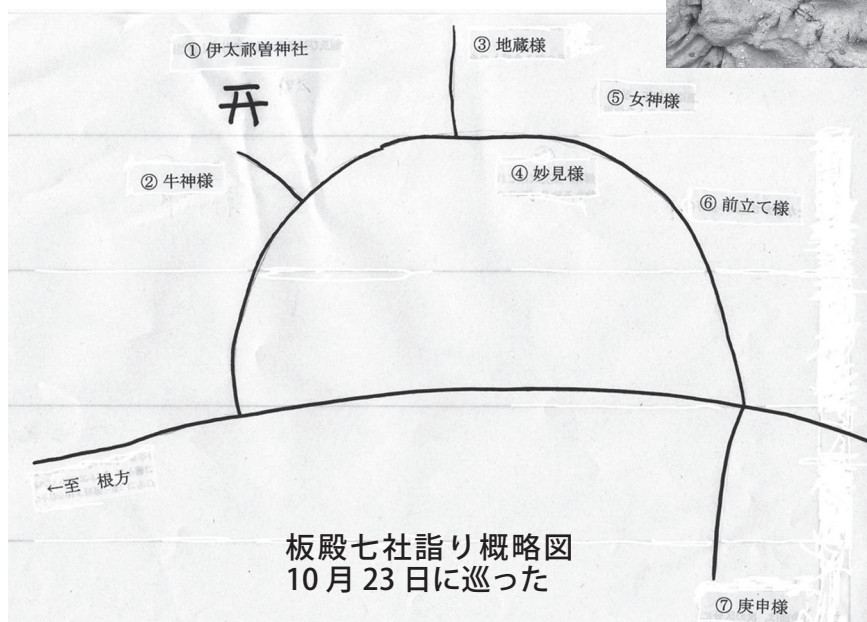
庚申様は高台にあり、山から引かれた用水が流れている。約450年前から栃の巨木に見守られ、人々が住むようになった集落。丸めた壁土を投げ上げた丹生川小学校の子ども達の手指の跡がくっきり残る土蔵の壁（人の手による創造の極致とも思えた）が、当たり前のように残る板殿。石仏さまたちは、信仰・敬愛の対象であると同時に、凍える冬には真綿をかぶせてあげたい、親しみのある存在だったのでしょ。



伊太祁曾神社の大栃



子どもの手指の跡のある土壁



板殿七社詣り概略図
10月23日に巡った

経済・効率が優先される現代、何かを敬い愛する心が失われつつあるこの時代、この明るい集落がいつまでもありますよう、ここに暮らす人の邪魔にならねば、再び訪れたいと祈りつつ、かつての通学路を下りました。

末尾になりましたが、戦国時代の興味深い話をして下さった田口勝様、石仏の調査をされた住さん、通学路の草刈りをして下さった松崎夫妻に深く感謝申し上げます。

※注：くらがね通信 59号に掲載の「丹生川の石仏（その2）」を読み返して頂くと参考になります。

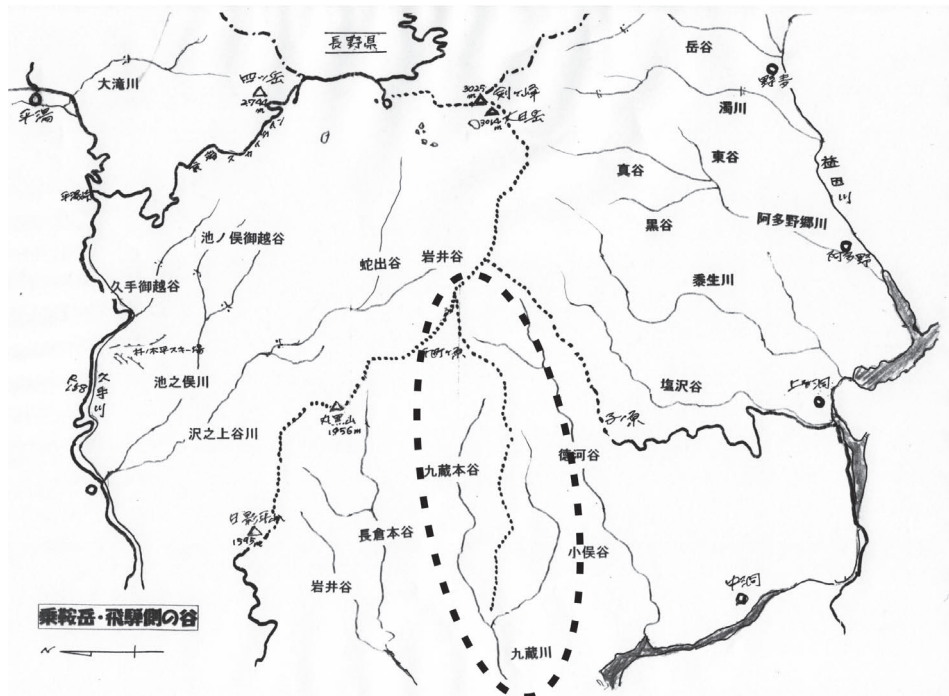
もっと乗鞍岳のことを知ろう〔その9〕

木下喜代男

この寒いのにまた沢登りの話で恐縮です。わが母なる山「くらがね」のことをもっと知ってほしいと、「幻の飛騨乗鞍スキー場」、「登拝路の盛衰」に続いてこの「乗鞍岳の谷」を連載し、今まで5つの主な谷を紹介してきました。そろそろ飽きてこれられたと思いますが、あと2回ほどお付き合いください。

乗鞍岳・飛騨側の谷概念図(一部)

山旅派の元祖田部重治は、溪谷遡行の喜びについて「仰ぐ流れの彼方を包む山々、樹林、谷間のなんと複雑な包容的なものだろうか。もし日本においてまだ人間の足を踏み入れない場所があるとすれば、溪谷においてこそその可能性が最も多いと言わなければならない。」と述べています。これは昭和15年に書かれたものですが、現在でも溪谷には依然未知なる部分が残っていて、我々をおおいに満足させてくれるのです。



乗鞍岳の谷 6- 九蔵本谷・小俣谷・九蔵川 = 美しい滝が多い変化に富んだ谷

九蔵本谷は、標高2300mの秘境千町ヶ原を源として真西へ流れ落ち、途中で小俣谷と合流して九蔵川となり、青屋で二又川と合流する約10kmの滝が多い変化に富んだ谷だ。最下部に集落が少しあるだけなので、乗鞍がもたらしてくれる清冽な水の中で遊ぶことができる。この谷は朝日町の中心部から近いため、私が今までに一番多く入っている谷だ。以下はじめて入った時の山行記録と写真(①～⑩)で紹介したい。

- ・遡行月日 平成23年(2011)7月18日
- ・同行メンバー 古守博明さん(飛騨山岳会員)

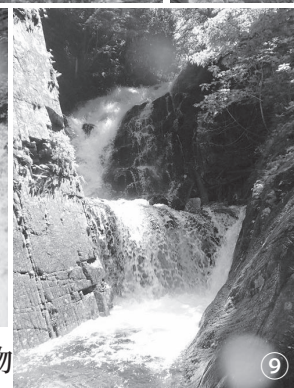
車1台を森林管理署のゲート前に置いてから入溪場所(二又川との合流点)まで戻る。入溪して少し進んだところで前方の水際にいる大きい熊を発見。むこうもこちらに気づいて急いで急斜面を駆け上がり、ヤブのなかに消えた。暑いので水を飲みにきたのであろう。谷は広く水量も豊かで、随所に美しい滝がある。大小の滝をやさしいのはシャワークライミング、難しいのは高巻き





をしながら進み、ナメ滝ではわざと滑って釜へ落ち、泳いで遊んだ。

途中砂防堰堤が1カ所あって高巻き、次には森林鉄道の橋



脚の残骸が現れた。昔は林道や砂防堰堤などの人工物がある谷は避け、必ず頂上へ到達しなければ満足できなかったが、この年になってからはそんなこだわりを捨ててゆったりと遊ぶと結構楽しいことがわかった。この日は時間の関係で谷の半分くらいのところから上がり、森林に覆われた林道を歩いて下山した。

その後本谷の上流部、さらに小俣谷も遡行したが、手つかずのすばらしい樹林帯のなかに滝が連続し、未知へのあこがれを満足させてくれた。そして山行のたび、偉大なる乗鞍岳への感謝の念が強くなるのであった。

第1回飛騨位山トレイルについて

編集責任者：松崎茂

昨年10月11日に会員の木下さんから「第1回飛騨位山トレイル」大会（10月22日に開催され事故も無く無事終了）に関するメールが役員に送られてきました。その後、木下さん及び役員間で以下のようなメールのやり取りがありました。また運営委員会（10/29・11/30・12/21）でもこの件につき話し合いをおこないました。その結果、やり取りされたメールを会報に掲載することにしました。来年以降の大会がより良い方向で開催されるよう、ぜひ皆さんにも考えて頂き、様々の立場からご意見を事務局までお寄せ下さることを期待します。

なお、以下文中で木下とあるのは会員の木下喜代男氏（岐阜県山岳連盟会長）、飯田は当会会長、中島は当会運営委員及び飛騨位山トレイルの実行委員、松崎は当会運営委員及び大会の参加者（ランナー）です。

10月11日 木下

「乗鞍岳と飛騨の自然を考える会」会長 飯田 洋様

会員の木下です。その後ご無沙汰いたしております。さっそくですが、確か今月の22日に位山と川上岳あたりでトレイルランニングの大会が開催されます。今まで各地で開催された大会では、登山道が大きく損傷したり、周辺の植生に悪影響を及ぼした例が多く、環境省が登山道利用に関するガイドラインをたてに開催の自粛を要請し、中止に至った例もあるようです。今回の大会関係者はこうした懸念を取り除くための努力を種々されているようですが、当事者だけでなく、今後のために第三者の当会でも事前、事後のチェックをする必要があるのではないかと思います。

各地で登山者やトレッキング愛好者から通行支障による拒絶反応が出てはいますが、これは一時的なことなので、むしろ環境保全に無関心な大勢のランナーによる、霊山位山、川上岳の自然環境破壊のほうが心配されます。

ご存知の通り、当会では以前拙者も関わって高山市が予定していた位山頂上のトイレ設置に反対して位置を変更させた実績があり、位山のことに無関心ではられません。役員会での善処をお願いいたします。

10月21日 飯田

松崎 様、飯田です。

木下さんから記載のような連絡が来ておりました。運営委員会（10/29）が開かれる際に話そうと思っていたのですがもう 22 日に開催されてしまいます。

飯田の個人的な意見としては年に 1 回程度のトレイルランでどれほど影響があるのか分かりません。結局、行事の回数、人の数、踏破される登山道がどのような自然（植生、湿地湿原の集水域か、貴重種の存在の有無）どのような保護規制されているか（自然公園内か、天然記念物に接するか、無規制の地域か）などで、考えることだと思います。この問題を考えるならば、現在懸念すべきは、中部山岳国立公園内の登山道の方もかなり荒れているのではないのでしょうか。先日焼岳に行って来たら登山道が踏圧で深い側溝のようにえぐれてしまっており酷い状況でした。他の登山道はよく判りませんが・・・。

11月1日 木下

「乗鞍岳と飛騨の自然を考える会」会長 飯田 洋様

こんにちは。過日お願いした件については対応いただいたかどうかわかりませんでしたので、昨日拙者が登山道損傷の有無について現地を見てきました。その結果たいした損傷は見受けられなかったものの、全体的に以前より道が大きく広がっており、特に恒常的なぬかるみの箇所（標高 1400m あたりから「天の岩戸」の間）を左右に避けて通ったため、登山道が必要以上に広がっている個所が何か所もありました。

登山靴でないためよけいにぬかるみを避けたためでしょう。大会運営側の方で事前に選手に注意喚起をされたものと思われ、この程度で済んだともいえます。中島さんは大会運営の中核におられた由、これ以上道が広がらないためのぬかるみ対策など来年の運営に生かしていただければ幸いです。

拙者が所属している（公社）日本山岳協会ではトレイルランによる環境破壊を問題視し、過日全国の大会運営団体をあつめてルール作りなどを行っていますので、県山岳連盟の自然保護委員会でも今後監視を強めてゆくことになっています。

当「乗鞍岳と飛騨の自然を考える会」は、現在乗鞍の自家用車乗り入れ再開の動きを牽制するくらいで、あとの活動は自然学習がメインになってしまっているように見受けられます（認識が違ったらご容赦）。今後こういった小さいことでも会員から会の方へ通報できる制度の必要を感じますので会報でよびかけるなど検討されたらいかがでしょうか。

拙者役員の時になにもできませんでしたが、位山の頂上に立つたび「ここにトイレを作らせなくてよかった」と思い、当時交渉した宮町の方からも同じ思いを聞くことがあり、これが唯一誇れる仕事でした。役員諸兄の今後のご活躍を祈念しております。



11月2日 松崎

当大会にランナーとして参加した立場ですので、なにか話にくいのですが私見を述べます。

大会当日までの実行委員会による登山道整備は何度も行われたようです。6月と7月に位山、川上岳に登って登山道の様子は把握しておりますが、天空遊歩道（位山～川上岳間）は一部しか通っていないのでわからない部分があります。また、ボクはショートコースに参加したため、レース当日も天空遊歩道は走っていません。経験は少ないですが、各地のレースに参加した感想としては、「思ったより道は痛まないものだ」というものです。トレランシューズの靴底は登山靴に比べればかなりソフトにできていて、ダメージが小さいのではと思います。ゴムキャップのついてないトレッキングポールの方が、よほどたちが悪いです。また、一部トップ集団を除けばほとんどの選手がコースの大半は歩いています。もちろん、一日に普段の登山者よりも多くの人数が通り過ぎますのでそれなりのダメージがあります。木下さんがおっしゃるような湿地帯のような所は普段でも歩きづらいため、整備が必要でしょう。また、必要以上に道の両側の刈り払いがされているようにも思いました。これらも含め反省点として次の大会に向けて、話し合いをして行かねばと思っています。



11月4日 木下

ご返事ありがとうございます。人間が登山やトレランなどで自然の中で遊ぶ以上、自然に負担をかけることは避けられないので、最小限になるようお互い知恵をしぼる必要があります。

12月2日 中島

木下様、皆さま

飛騨位山トレイルの実施にかかるコース状況等についてメールをいただいておりますが、実行委員会の一員として個人的に返信をすることについて、躊躇しておりました（実行委員会の公式見解と異なる恐れがあるため）。しかし、コース係担当としての個人的意見ということで少し記してみたいと思います。

当該コースはコースのすばらしさは記すまでもありませんが、全国でもトレイルランニング大会の開催に伴う環境破壊、登山者との軋轢の問題が顕在化しており、飛騨位山トレイルにおいてもそのような問題が起きないように注意を払って進めてきたところです。

具体的には、コースの事前調査（登山道として機能を果たし得ない個所の洗い出し）をしたうえで、崩壊危険個所の修繕及びぬかるみ個所への渡り板の設置を行いました。また木の枝が登山道に張り出した個所について、枯れ枝は切除、生きた枝には標識テープをつけることや、足元の危険な切り株等に赤スプレーの塗布を行いました。

これらの対策は、私が登山者の視点から見て、登山道として必要な整備は何かという視点にたち、限られたボランティア人員と予算、期間を勘案して実施したところです。なお、コースは全線高山市が登山道（一部林道も含む）の維持管理を実施していることから、私の本業（高山市一之宮支所職員で、登山道管理を担当する部署に勤務）の面で、ササ刈りや、登山道修繕（階段補修、洗堀個所の修繕など）も併せて実施したところです。

登山道整備については、どの程度までするのが適当かは、おそらく様々な意見があり正解はないと思われます。例えば、登山道に出っ張ったサラサドウダンの枝は、「危ないから切ったほうが良い」という意見もあるでしょうが、私はちょっと避ければ通れるような場合は残す判断をしました。また、枯れ枝が出っ張っている場合も、苔むして自然らしくていいな、と思われる枝は残

すようにしました。それらを安全の面からの視点で除去してしまうことは、位山の自然を損なうことになり、登山者やトレラン参加者にとっても残念なことになる気がする、と考えたからです。

幸か不幸か、実行委員会のメンバーに、自然に関心がある人が少なかった（コース整備に参加する委員も少なかった・・・）ため、主に私個人の判断で整備するかどうかのレベルを現場で決めていました。今後の課題としては、実行委員会に自然や登山の関係者を含むようにし、コース整備のガイドラインを検討して決めていった方がいいのかもしれない、とは考えています。そこに、飛騨山岳会なり乗鞍岳と飛騨の自然を考える会の方に入っていただくのも一方策かとも思います。

大会終了後、私も状況確認に行ってみましたが、登山道の大部分は特段荒れているところは目につきませんでした。大イチイ周辺の路肩修繕箇所はしっかり機能を果たしていましたが、位山山頂から川上岳方面にいったところのぬかるみ地帯に設置した渡り板も、多くは機能を果たしてくれていました。ただし、板が狭かったからか勢い余ったからか、脇にハマった跡も多少ありました。この一帯は来年度またボランティアで渡り板を増やす方向で作業をしていけたらと考えています。また、今年手を付けられなかった位山～スキー場の区間のぬかるみにも渡し板などの整備が必要と考えています。実行委員会でも、次回以降はコース整備についても予算計上をし、しっかりした整備を（市が実施する整備と調整しながら）していこうという方向性は出ていますので、登山者にもメリットのあるような、且つやりすぎない整備ができと思っています。

位山、川上岳、舟山のいわゆる位山三山は、みんなに愛され親しまれている山です。私も大切に思っています。登山者も、山菜取りも、トレイルランニングの方も、自然愛好家も、またその他（宗教関係も・・・?）の山を訪れる方が楽しく安全に利用できるように考えながら、公私ともに携わっていきたいと思います。そのためにも、皆様方の各方面からのご意見、ご提案をいただきながら、より良い方向を目指したいと思っています。

中島照雅

12月5日 木下

中島様

貴兄が事前にいろいろ努力されていたので、あの程度で済んだことがよくよくわかりました。

今後のためには主催者に問題意識を持ってもらうことが必要なので、ご提案のように実行委員に飛騨山岳会なり乗鞍岳と飛騨の自然を考える会が参加するといいと思います。皆で両立の道を探りましょう。

第6回乗鞍フォーラムに参加して

会長 飯田 洋

今年は、自然保護団体の代表としてのパネリスト参加の依頼も無く、しかもフォーラムの案内が約2週間前に届くなど、乗鞍自動車適正利用協議会側の市民とともに考える姿勢を疑いつつも、平成28年12月4日、第6回乗鞍フォーラム『ともに考える乗鞍の明日』に参加してきました。

会場の世界民族文化センターは、観光関連業の関係者でほぼ満席。会議では、例年のごとく、パネリストである平湯観光協会長の中澤徹氏が、地元の観光客の集客が減少しており厳しい情勢であるという発言を繰り返され、結局、このフォーラムは、市民会議の形式をとりつつ、観光業界側からマイカー規制の解除要請を出させ続け、毎年開催することで乗鞍のマイカー規制をなし崩すためのお膳立てではなかろうかと思いつつ、なかば諦めて聴いていました。

ところが、今年は例年と異なり、会場の意見を聴く時間と機会を多くするというので、パネリストの発言の後、早速、会場にマイクが向けられました。案の定、平湯温泉



の宿泊客が減少の一途を辿っているのでは、マイカー規制を解除して欲しいという要望が出たものの、特に会場から大きな賛同の意見は出ませんでした。

ようやく、私にも出番が回ってきたので、

- (1) 乗鞍の自然環境は回復傾向にあるようだが、他の人気の山岳観光地である立山や白山のように、車両や観光客の靴に付着した種子の除去など、外来種対策を徹底する必要がある。
- (2) 平湯から乗鞍山頂に向けて登山道が整備されたが、登山するには強度が強すぎる。
- (3) 宿泊客の減少は、各旅館の自助努力の問題で、他の観光地のように、自然体験を重視したプログラムを宿泊客へ提供するなど集客に努める必要がある。
- (4) 今回のシンポジウムは年末の上、案内が遅すぎたため、出席したくてもできない市民が多かった。開催時期、案内の時期を考えてほしい。

との意見を述べました。

それを受け、コーディネーターの三井栄氏が、3の観光客、リピーター対策問題をパネリストに振ったところ、畳平で旅館を営んでいる乗鞍観光協議会長の小笠原芳雄氏より、ご来光で感激される宿泊客が多いこと、自然公園指導員の小林正直氏より、星座観察などをとりいれた結果、リピーターが増えているとの発言があった。決して宿泊客は減少の一途ではなく、努力しているところではリピーターが増えているようでした。



最後に、パネリスト吉澤保幸氏が、乗鞍を擁する観光地としては、その自然的価値を重視し保全しつつ、その魅力を観光客にアピールして地域振興していくことが必要で、マイカーを入れて自然的価値を減少させてはならないという趣旨の意見を述べて締めくくられました。

今年のフォーラムは、時間配分もよく、活発な意見が出た点は評価できますが、フォーラムの会議録や、パネリストと会場から発言の要旨などをホームページ上で公開し、翌年に引き継ぐなど、その意見をフィードバックさせた施策を検討するなど、乗鞍自動車適正利用協議会、高山市丹生川支所における一層の努力を期待しています。

なお、フォーラムの数日後参加されたある県議から、外来種対策のために夫婦松で車両の種子を除去する施設を造ったらどうかという貴重な提案がありました。外来種対策としては名案ですが、とにかく行政側は箱物を造りたがり、外来種対策の設備の設置と並行して、マイカーを夫婦松まで上げることを提案しかねません。上高地、立山などと並んでマイカー規制を実施した乗鞍において再びマイカー規制を緩めることは環境政策としては逆行するもので、当会としては到底受け入れられるものではありません。

次回、第7回のフォーラムは年度の早い段階で開催されるようですので、会員の皆さんも是非、多数ご参加ください。

■ 会員を募集しています！ 年会費＝個人 2,000 円 家族 3,000 円 団体 5,000 円

あなたの知人、友人に入会をおすすめてください

・郵便振替 00800-8-129365 振込先 乗鞍岳の自然を考える会

くらがね通信 第 67 号 (冬号) 2017 年 1 月 20 日 発行

発行者 乗鞍岳と飛騨の自然を考える会 〒506-0055 岐阜県高山市上岡本町 4-218-3 飯田 洋

TEL: 0577-32-7206・FAX: 0577-32-7207

★ <http://iidalaw.net/norikura.html>

編集室では皆さんからの原稿、ご意見等をお待ちしています。

■ 編集責任者: 松崎 茂

E-mail: ponykun0428@hidatakayama.ne.jp TEL: 0577-34-4703

表紙写真提供: 小池 潜

印刷: 山都印刷